

多様な主体による地域づくり活動について（調査）

関東地方整備局
建政部計画管理課

目次

1. 調査の目的

2. ヒアリングによる課題調査

(1) ヒアリング対象となる活動の選定

(2) 各活動について

- 1) 高崎田町屋台通りの活動(屋台村事業)
- 2) まちごと屋の活動(まちなか再生事業)
- 3) 「こしべんと」プロジェクト

(3) まとめ

1. 調査の目的

多様な主体の連携により行われる地域づくり活動の活動上重要となる資金調達・循環の状況について、実態を把握するため、これら主体の活動を支える中間支援組織及び地域金融機関にヒアリングを行い、その結果を取りまとめる。

2. ヒアリングによる課題調査

(1) ヒアリング対象となる活動の選定

関東管内で国土交通省モデル事業(※)に応募があった活動の中から、地域金融機関と中間支援組織とが連携して地域社会の課題解決に取り組んでいるものを3つ選択

(※)平成24年度「新しい公共」の担い手による地域づくり活動に対する非資金的支援に資するコンテンツ整備のためのモデル事業

1) 高崎田町屋台通りの活動(屋台村事業)

- アールアンドディーアイスクエア株式会社【中間支援組織】
- しののめ信用金庫【地域金融機関】

2) まちごと屋の活動(まちなか再生事業)

- まちごと屋【中間支援組織】
- アールアンドディーアイスクエア株式会社【中間支援組織】

3) 「こしべんと」プロジェクト

- 特定非営利活動法人富士川・夢・未来【中間支援組織】
- 山梨中央銀行(青柳支店)【地域金融機関】

2. ヒアリングによる課題調査

(2) 各活動について

- 1) 高崎田町屋台通りの活動(屋台村事業)
- 2) まちごと屋の活動(まちなか再生事業)
- 3) 「こしべんと」プロジェクト

1) 高崎田町屋台通りの活動(屋台村事業)

【概要】

- ◆高崎市中心市街地の活性化、地域の人材育成を図るため、屋台通りを設立
- ◆アールアンドディーアイスクエア株式会社が、経済産業省事業(※)を活用しつつ、LLC(有限責任合同会社)の設立、LLP(有限責任事業組合)の事業フレームの考案といった制度設計を行ったことをきっかけに活動を開始

(※)地域新事業活性化中間支援機能強化事業(平成20~22年度)

◆高崎田町屋台通りの様子

提供:アールアンドディーアイスクエア株式会社

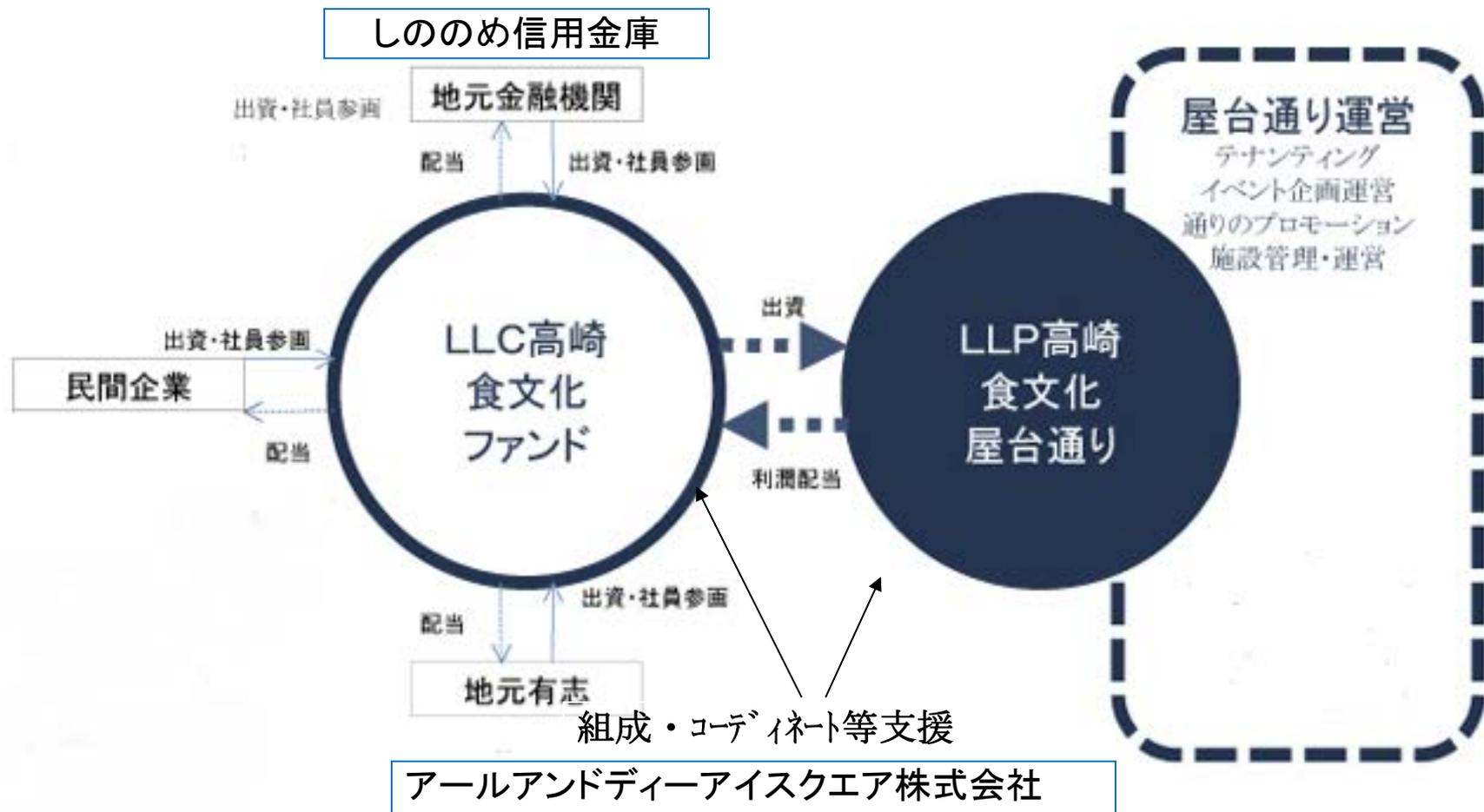


1) 高崎田町屋台通りの活動(屋台村事業)

【事業の運営】

- ・地元民間企業、地域金融機関、地元有志が参画する「高崎食文化ファンド(LLC)」が出資する「高崎食文化屋台通り(LLP)」が主体となり事業実施
- ・LLPが、屋台通りの整備、店舗の設置、入居者のテナンティング、地域メディアを活用した宣伝広報など、屋台村事業全体の企画運営・管理を担当
- ・テナントは3年1クールで募集
(3年後に、出店テナントが、事業の運営ノウハウ等を習得、独立起業することにより、更なる地域活性化効果を期待)

1) 高崎田町屋台通りの活動(屋台村事業)



提供:アールアンドディーアイスクエア株式会社

1) 高崎田町屋台通りの活動(屋台村事業)

◆アールアンドディーアイスクエア株式会社【中間支援組織】

- ◆産業立地や工業団地、インキュベーションの支援等に関し、調査・提案を行うシンクタンク

(屋台村事業における活動)

- ・会社の持つノウハウを生かし、地域金融機関と連携したファンドの組成、LLPの事業フレームの考案や事業収支計画の作成、入居者決定に係るコーディネート等の支援を実施
- ・地域金融機関(しなのめ信用金庫)との連携については、互いに地域の課題について共通の問題意識を持っていたことから、本事業への出資が実現

1) 高崎田町屋台通りの活動(屋台村事業)

◆しののめ信用金庫【地域金融機関】

- ◆中小企業や地域住民を会員とする協働組織の金融機関
- ◆中小企業やコミュニティビジネス向けの支援に積極的に参画

(屋台村事業における活動)

- ・地域内の結びつきにより、中間支援組織であるアールアンドディーアイスクエア株式会社から、本事業への支援要請を受けたことをきっかけとして、支援手段の検討を開始
- ・出資に当たっては、まちづくりという公益的な目的と収益性の両面からの事業計画の妥当性、事業の構成メンバーの信頼性を重視

1) 高崎田町屋台通りの活動(屋台村事業)

本事業の特徴

- ・適切な資金管理から収益性を担保
「お金を集めて廻す仕組み」(LLC)と「人を集めて事業を廻す仕組み」(LLP)を分離
- ・地域ぐるみの資金循環
LLCの出資者やその家族が、顧客として売り上げに貢献

今後の課題等

- ・資金調達の課題として、起業資金の確保・仕組みの構築
創業時に担保や信用不足の事業者でも金融機関から長期・低金利融資を受けられる制度、条件により無担保・無保証人で融資を受けられる制度の創設

2) まちごと屋の活動(まちなか再生事業)

【概要】

- ◆行政・商店街中心で進められてきたまちなか再生の発想を転換
- ◆まちなかの空き家・店舗等をこれらの物件を賃借したいというニーズと結節
- ◆新たな地域コミュニティを形成し、高崎市の中心市街地に賑わいを回復
- ◆県、市、NPO等からなる群馬・高崎まちなか再生協議会のプロジェクトとして立ち上げ

2) まちごと屋の活動(まちなか再生事業)

◆まちごと屋【中間支援組織】

◆まちなかの空き家等の実態調査を実施

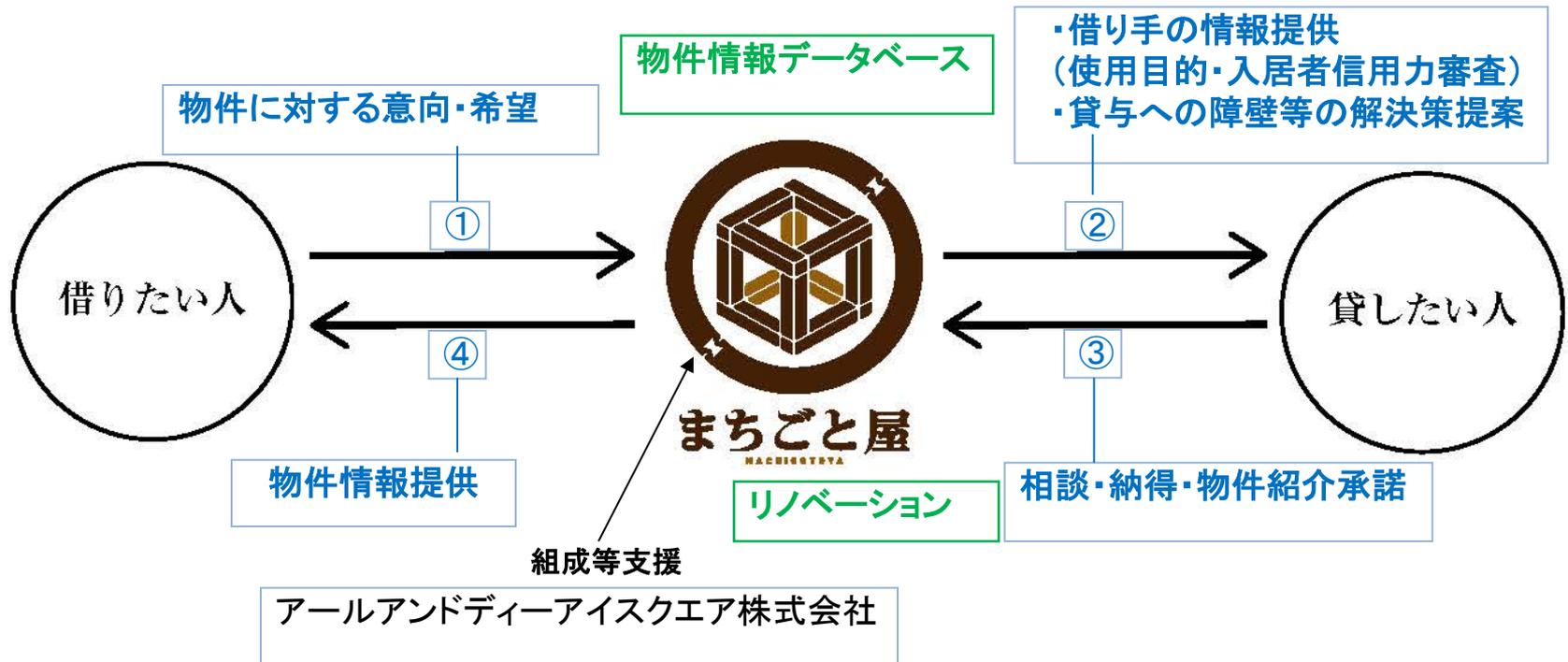
◆マッチングを実施

- ・空き家等所有者に対してその有効活用に向けて働きかけ
- ・古い建物のプロデュースやリノベーションに興味がある建築家やデザイナー、まちなかで起業したい者、まちなか再生に興味を持つ者等のニーズの掘り起こし

◆アールアンドディーアイスクエア株式会社【中間支援組織】

◆1)の屋台村事業同様、会社の持つノウハウを生かし、事業の全体フレームの考案や事業収支計画の作成等の支援を実施

2) まちごと屋の活動(まちなか再生事業)



④の情報提供後、お互い直接話し合いの末、マッチング成立

提供: オールアンドディーアイスクエア株式会社

2) まちごと屋の活動(まちなか再生事業)

本事業の特徴

- ・マッチングでは、物件が古いなど通常の流通市場にのらないような物件を選択、既存の不動産事業者との棲み分けを図りながら、新規需要を開拓
- ・まちごと屋自身が入居者の審査を行って利用目的を把握し、所有者側の「どこの誰が入るか分からないので貸したくない」という不安を払拭

今後の課題等

- ・出資者の募集や新規事業実施に伴う資金調達
今後出資を募った上で株式会社に変更予定
まちごと屋自ら物件の賃借人となり、リノベーションによる付加価値を加えた後にテナントに賃借するサブリース事業の実施を検討

2) まちごと屋の活動(まちなか再生事業)

まちごと屋 1 号 案 件 の 様 子

入居者であるNPO法人ジョウモウ大学は、本物件を本拠地として、まち全体(公共施設・カフェ・公園など)をキャンパスに見立て、旧富岡製糸場周辺の路上観察会によりまちの魅力を再発見するフィールドワークを実施するなど生涯学習活動を展開している。



提供:アールアンドディーアイスクエア株式会社

3)「こしべんと」プロジェクト

【概要】

- ◆中部横断道の全線開通を見据え、沿線地域の活性化策として、県、地域金融機関、NPO等からなる「中部横断道沿線地域活性化構想推進協議会」のプロジェクトとして展開
- ◆県峡南地域の旬の食材を概ね100%使用し、四季折々の味を堪能できる弁当「こしべんと」を開発・ブランド化
 - ①作り手認定制度を創設
 - ②「こしべんと[®]」を商標登録



3)「こしべんと」プロジェクト

こしべんと開発・普及プロジェクト推進協議会

- ・市川三郷町男女共同参画推進委員
- ・くにみ園
- ・山梨中央銀行青柳支店
- ・山梨県
- ・NPO富士川・夢・未来(事務局) など

支援

- ・ 峡南地域食材の充実・強化
- ・ 飲食店の発掘・認定
- ・ ブランド価値の確立
- ・ 話題づくり・PR

「こしべんと」

(開発・製造・販売)

認定飲食店

- ・ 地域の旬の食材を活かした四季折々のメニュー開発・製造
- ・ 食の魅力を発信するためお品書きを作成
- ・ 魅力的な容器等

食材生産者
(大塚にんじん)

食材生産者
(あけぼの大豆)

食材生産者
(ゆず)

食材生産者
(甲斐あかねます)

地元の食材を概ね100%

- ・ 地域ならではの食材を使用
- ・ 峡南地域食材一覧の作成・充実
- ・ 食材の確保 など

大塚にんじん・あけぼの大豆・ゆずなど



提供：中部横断道沿線地域活性化構想推進協議会

3)「こしべんと」プロジェクト

◆NPO法人富士川・夢・未来【中間支援組織】

- ◆地域活動の主体に対する金融機関等とのマッチングや起業・事業、商品開発等の相談に応じるなど幅広い活動を展開
- ◆コーディネーターに徹することが活動の基本方針

(「こしべんと」プロジェクトにおける活動)

- ・地域の観光団体やNPO等に対する地元食材に関する情報収集や「こしべんと」の販路拡大に係る情報提供等
- ・「こしべんと[®]」の商標登録にあたり、申請主体として中心的役割を発揮

3)「こしべんと」プロジェクト

◆山梨中央銀行(青柳支店)【地域金融機関】

- ◆地域密着型金融機関として取組みを積極的に実施
- ◆販路拡大のためのビジネスマッチングやコミュニティビジネス支援、非金融面(知恵・ノウハウ)についても積極的な支援

(「こしべんと」プロジェクトにおける活動)

- 推進協議会委員として直接活動に関わり、事業の全体像から個別の活動内容まで幅広く把握、円滑な支援実施

3)「こしべんと」プロジェクト

本事業の特徴

- ・地域ならではの食材、調味料、食べ方ではあっても当該地域では特別視されていなかった資源を特定・ブランド化
- ・地域金融機関は非資金的支援を展開、その参画により、活動主体の認知度・信用性が向上

今後の課題等

- ・「こしべんと」に対する広域的な認知度向上が課題
 - ・地域活性化の活動主体としての多様な主体による地域づくり活動に対する認知度が低く、コミュニティビジネスやソーシャルビジネスに対して、地方自治体、地域金融機関と連携しやすい環境整備が必要
- 多様な主体による地域づくり活動そのもののPRなど、国の積極的役割も期待されるところ

(3)まとめ(各活動の共通点)

意欲ある個人や団体の連携が各活動の原動力となっている点で共通している。

→ 屋 台 村: 個性的な店舗の集積が屋台通りを形成

まちなか再生: 市場価値が低い空き家等への需要を組んで
地域交流の場を創出

「こしべんと」: NPOが中心となって様々な地域活性化の
取組み連携を促す中で、地域で認識されて
いなかった食の価値をブランド化

(3)まとめ(資金調達・循環に関する課題)

事業主体の資金力や信用力が十分でない場合の円滑な資金調達は課題

- 屋 台 村: 地域の問題意識を共有する個人の結びつきから資金調達を実現し、事業実施と資金管理を分離する仕組みを導入、事業の自由度を維持しつつ安定的経営を実現
- 「こしべんと」: 地域金融機関は非資金的支援、間接的に取組み全体の信用力向上

地域づくり活動を行う多様な主体が継続的に資金的支援を受けられる環境整備の必要性

- 多様な主体による地域づくり活動のPRにおいて、国に期待する声もあった